

子どもの成長に沿った声をつないでいく場に

しゃべりば通信

今年7月20日（日）、第二回みんなで子育て作戦会議「しゃべりば」を南三陸町と任意団体「みなはび」（特活）ウィメンズアイで共催しました。総勢35名が参加し、「妊娠期から中高生までの『こんなことができたらいいな』」をテーマに話し合いました。

ゲストに仙台からZOO法人アスイクの稲村友紀さんを迎え、子ども・若者支援の取り組みを紹介いただきました。その後は妊娠期から中高生までの4つのグループに分かれて意見を出し合い、最後に「共感シール」で全体でアイデアを共有しました。

佐藤町長からは「できない理由ではなく、できる理由を見つけていきたい。言っても無駄と思わず、継続して声を届けてほしい。それが大事だ」と力強いメッセージをいただきました。



「しゃべりば」に初参加した佐藤町長



活気あふれるワークショップ会場

2025年
9月号

「しゃべりば通信」は、しゃべりばの開催と連動してまちの子育てをみんな考えていくためのお便りです。

発行：
25年9月8日
企画・作成
（特活）ウィメンズアイ
みなはび

後半のワークショップで共感が多かった項目

- ・ 4月に開設された【こども家庭センター】への期待
- ・ 0歳～2歳の待機児童の解消に向けた官民連携
- ・ 小・中学生の遊び場や居場所づくり
- ・ 学力や運動力など得意を伸ばす機会づくり
- ・ 高校生向けのキャリア教育や将来を考える機会、地域との関わり



地元に戻ってきた若者も、世代を超えて意見交換に参加しました。

参加者の声

「初めて参加しました。久しぶりに小さな子どもたちを側に感じながら、おしゃべりして、とっても有意義な時間でした。」

「課題は沢山あるけど、みんなで話し合っただけで、前向きにできることを考えてみることも大事だと思いました。」

貼り出された意見に共感しながら見入る参加者たち



みなはびの感想

初めての方もリピーターの方も一緒に、さまざまな想いや意見を交わすことができ、とてもあたたかな時間となりました。町長や稲村さんにも見守っていただき、また前を向いて歩き出す勇気をいただきました。



当日のゲストからのメッセージ



稲村友紀さん
特定非営利活動法人アスイク

さまざまな立場の方々が、南三陸のこどもの未来に向けて活発に意見を出される姿が印象的でした。言ってもいいと思える土台が南三陸にはあるのだと実感します。子どもも大人もごちゃ混ぜになりながら、次の一歩を踏み出されることを期待し、私も微力ながらお力になればと思います！